

テーマ

# 新規肝線維化マーカー、 オートタキシン 誕生秘話

座長

**矢富 裕** 先生  
(東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学)

講演者

**池田 均** 先生  
(東京大学医学部附属病院 検査部)

日時

2018年10月12日(金) 12:20-13:10

会場

**第Ⅵ会場**  
(神戸国際会議場5F 501号室)  
本ランチョンセミナーは整理券制です。



## 「JACLAS EXPO 2018」展示会のご案内

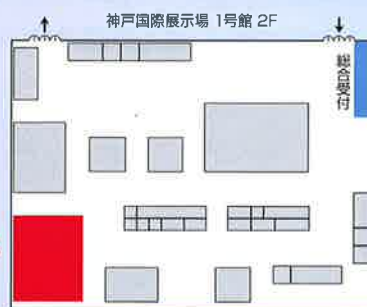
会期

2018年  
10月11日(木) 13:00~17:30  
10月12日(金) 9:30~17:30  
10月13日(土) 9:30~14:00

会場

神戸国際展示場 1号館 2F  
東ソープース No. B6-1

東ソープース  
No. B6-1



当日の入場手続きが不要になる

**JACLAS EXPO 2018 事前参加登録受付中!**

期日までに事前参加登録いただいた方には、ネームカードを送付いたします。  
当日ネームカードをご持参いただければ、受付に並ぶことなく入場できます。

事前登録フォームはコチラ

ジャクラス事前登録

検索

<https://jaclas-expo.jp/2018/form.cgi>



テーマ

# 新規肝線維化マーカー、 オートタキシン 誕生秘話

座長

**矢富 裕** 先生(東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学)

講演者

**池田 均** 先生(東京大学医学部附属病院 検査部)

要旨

肝硬変症は、B型・C型肝炎ウイルスや脂肪肝などを原因とする慢性肝障害の最終病像であり、食道静脈瘤や腹水を合併し、肝臓の発生母地として臨床上、大きな問題となっている。

肝線維化は、この肝硬変症の主たる病態であり、その診断および治療は重要な臨床課題である。肝線維化診断については肝生検による組織学的検討がgolden standardであるが、強い侵襲性が常に問題とされてきた。このため、別の方法として、超音波を利用して測定した肝硬度により線維化を推定するelastographyが用いられ、肝線維化の検討方法として、一定の評価を得ているが、機器の普及は十分ではなく、どこの施設でも行えるわけではない。このため、古くから血液中の物質をマーカーとして診断することが検討されてきた。しかしながら現状で、既存のマーカーは、疾患特異性の点で問題が多く、他疾患で上昇してしまうことも少なからずあり、新たな、より良い肝線維化マーカーの発見が期待されてきた。このような状況下、我々は脂質メデイエーターの産生酵素であるオートタキシン (autotaxin: ATX) が肝線維化マーカーとして有用であることを見出し、測定系を構築して臨床評価を実施した。その後オートタキシン測定試薬は製品化され製造販売承認を取得し、2018年6月より保険適用を受けて臨床利用が可能となっている。本セミナーでは、(1) オートタキシンとは、どのような物質か、(2) オートタキシンが何故肝線維化と結びついたか、(3) 肝線維化マーカーとしてのオートタキシンは、どれだけ有用か、について述べ、広く肝臓領域におけるオートタキシンの意義について最近の知見を交えて紹介したい。



**東ソー株式会社**  
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181 大阪支店 ☎(06)6209-1948  
名古屋支店 ☎(052)211-5730 福岡支店 ☎(092)781-0481  
仙台支店 ☎(022)266-2341  
ホームページ <http://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>